

アフリカにおける障害当事者団体の機能と特質

○ 京都大学大学院 日下部 美佳 (009986)

キーワード：アフリカ、障害当事者団体、機能

1. 研究目的

世界の全人口の15%が障害者と推定され、そのうち約8割が途上国で生活し、その大半が最貧困層であると推定される(UNDP, 2018)。サブサハラ・アフリカ地域(以下、アフリカ)などの途上国においては、貧困が障害を生み出し、障害が貧困に繋がるという障害と貧困の負の連鎖が常態化している(Ingstad and Grut, 2007)。またアフリカ各国では、国家による社会福祉サービスに多くを期待できないため、拡大家族やエスニシティのグループによるインフォーマルな相互扶助によって、障害者やその家族は生活を成り立たせてきた。しかし、昨今のアフリカの都市化や核家族化が進展する中で、相互扶助の機能は低下している。これらの状況において、アフリカの都市部を中心にNGOとして活動している障害当事者団体(DPO)は、収入向上活動や技能訓練の提供、またサポートグループを結成するなどの事業を展開している。これらの事業体の特質として、相互扶助の代替的な機能を果たす側面を持つと考えられる。そのため、本研究では、アフリカの障害当事者団体の機能と特質に関する議論を分析し、障害当事者団体の事業体に関する研究の動向と課題を考察する。

2. 研究の視点および方法

本研究では、アフリカの障害当事者団体に関連する文献レビューを行った。文献の収集方法は電子データベースのPubMed及びGoogle Scholarから主に英語文献の収集を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程」を遵守している。

4. 研究結果

文献レビューでは、アフリカの障害当事者団体の機能と特質に関する議論には主に2つの傾向がみられた。第一は、障害者の権利擁護活動やロビー活動など「運動体」としての機能に着目した障害当事者団体と政策立案・実施に関する議論である。第二は収入向上活動や技能訓練など障害当事者団体の「事業体」の側面に着目した議論である。

(1) 障害当事者団体と政策の関連に着目した研究

アフリカの障害当事者団体と政策立案や実施の側面については研究の蓄積が多い。その背景として、アフリカでは、欧米での障害者運動の発展と連動して障害当事者団体が数多く設立されてきた。これらの障害当事者団体は、障害者の社会参加が困難な原因を、機能障害のある個人ではなく、社会の制度や環境といった社会側にあるとする「障害の社会モデル」の考えを取り入れ、障害者の権利や法令、さらに政策の策定・実施等に際して積極的な関与を展開した。そのため、先行研究では政府(国家)と障害当事者団体の関係性に着目し、障害者政策の策定や実施に

かかる障害者の参加や排除に関する議論が多い（例えば、Kleintjes et al., 2013）。その結果、運動体の側面から障害当事者団体の特徴や役割を分析する傾向がみられた。

（2）事業体としての障害当事者団体の研究

アフリカの最貧国では、政府による社会福祉のサービスが整っていないため、障害当事者団体は構成員間の相互扶助や、障害者への技能訓練や収入向上等の生産活動等を行っているが、それらの活動を事業体の側面から詳細にまとめて分析した研究は少ない。限られた先行研究の動向を見ると、障害当事者団体による障害者の雇用促進など肯定的な成果に焦点を当てる研究がある一方で（Young et al., 2016）、障害当事者団体による収入向上活動や雇用への取り組みは、障害者の生活改善や生計向上までには至らず成果は少ないとする議論もある（Danida, 2000）。また障害当事者団体の財政基盤の脆弱さなど（Bezzina, 2019）、全体として障害当事者団体の事業体に着目した研究の多くは、活動の成果や事業の財政基盤を注視する国際ドナーの援助・支援側の視点による言及が多い。

5. 考察

アフリカにおける障害当事者団体の機能と特質に関する議論では、障害当事者団体の運動体としての機能を注視する傾向がある一方で、障害当事者団体の事業体の側面は重要であるにも関わらず、それらを分析する研究は少ない。その理由の一つとして、障害当事者団体の収入向上活動や職業訓練などの活動の多くがインフォーマルセクターにおいて展開されているため、詳細なデータを収集した調査研究が少ない。そのため、今後は現地のフィールドワークをもとに障害当事者団体の事業体の機能について議論を深め、障害者の収入向上活動に必要な技能を形成するうえで障害当事者団体が果たす役割を考察する。

<参考文献>

- Bezzina L (2019). Disabled people's organisations and the disability movement: Perspectives from Burkina Faso. *African Journal of Disability* 8(1):1-10.
- Danida (2000). From Charity towards Inclusion: The Way Forward for Disability Support through Danish NGOs. A Study of Danish NGO Support to Disability Organisations in Developing Countries.
- Ingstad B and Grut L (2007). See me, and do not forget me: People with disabilities in Kenya. World Bank.
- Kleintjes S, Lund C, and Swartz L (2013). Organising for self-advocacy in mental health: experiences from seven African countries. *African journal of psychiatry* 16(3):187-195.
- UNDP (2018). Disability Inclusive Development in UNDP, UNDP, New York.
- Young R, Reeve M, and Grills N (2016). The functions of disabled people's organisations (DPOs) in low and middle-income countries: A literature review. *Disability, CBR & Inclusive Development* 27(3):45-71.